

建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断DI値 全項目で悪化～



今期の業況判断DI値は、前回調査比10.4ポイント低下の8.6と悪化し、前回調査予想値(10.3)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で18.9ポイント低下の5.2、売上数量が22.4ポイント低下の3.5、利益でも12.0ポイント低下の▲3.4と全項目で悪化となった。

今期は、原材料・燃料費の高騰や人員不足により悪化となったが、受注状況は順調に推移している。

分野別の状況

～業種間格差はあるが業況悪化で推移～

土木工事業は、公共工事を中心に受注しており、売上は堅調に推移、原材料の高騰があったものの、工事代金へ価格転嫁したことで利益確保となった。

豪雨災害の復旧工事が継続しており、売上は安定しているが、人員不足のため進捗状況は悪い。

建築工事業は、個人住宅を中心とした受注安定している。建材・燃料価格が高く利益が減少した。

電気工事業は、公共工事は減少となったが、一般工事の受注が増え、売上・利益とも確保された。

管工事業は、公共工事受注するも人手が足りない状況であり、また、材料費の値上げにより利益を圧迫した。

建設業全般、人材確保の厳しい状況が続いている。

来期の見通し



～業況判断DI値 大幅悪化の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比31.0ポイント低下の▲22.4と大幅悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で32.8ポイント低下の▲27.6、売上数量が27.6ポイント低下の▲24.1、利益でも22.5ポイント低下の▲25.9と全項目で悪化の見込となった。

季節的要因による受注量減少、資材価格高騰・人員不足の状況が継続していることを含め、業況は大幅悪化で推移する見通しである。

製造業

回答企業33企業

概況

～業況判断DI値 やや改善～



今期の業況判断DI値は、前回調査比6.1ポイント上昇の▲9.1とやや改善し、前回調査予想値(▲12.1)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で3.1ポイント低下の3.0、売上数量が6.1ポイント上昇の▲3.0、利益でも15.2ポイント上昇の0.0と売上・受注はやや悪化、売上数量、利益がやや改善する見込みとなった。

原材料および燃料費の高騰が続いている中で、価格転嫁が順調に図られ、総合的業況はやや改善となった。

分野別の状況

～総合的業況 やや改善で推移～

食料品製造業は、原材料価格高騰により商品価格改定を行ったが、年末の注文は例年通り順調に入っている。

円安の進行等で原価上昇、商品の値上を敢行したが追いつかない状況。

建築・建設用金属資材製造業は、売上は前期同様に推移。材料価格が高騰しているが、価格転嫁を行っており利益は確保した。

衣料・縫製業は、在宅ワークが増え、スーツの需要が減少、加えて縫製原材料も高騰しているため売上・利益とも減少した。

鉄鋼加工製造業は、原材料が依然として高値で推移しており、価格転嫁が難しく利益を圧迫している。

見積書作成後に材料費が変動するリスクが高く、慎重に仕事を選ばざるを得ない状況のため売上は伸び悩んだ。

来期の見通し



～業況判断DI値 やや悪化の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比3.0ポイント低下の▲12.1とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で21.2ポイント低下の▲18.2、売上数量が15.2ポイント低下の▲18.2、利益でも18.2ポイント低下の▲18.2と全項目で悪化の見込みとなった。

売上は順調に推移する見通しであるが、原材料価格高騰が継続しており、利幅縮小を懸念している。総合的業況はやや悪化の見通しである。

業況判断DI値の推移

D I ■4~6月 □7~9月 □10~12月 □1~3月 ■今期 ■見通し

